



協力の先にある成長

校長 伊藤 栄司

長かった夏休みが終わり、学校に子どもたちの元気な声が戻ってきました。夏休み中に得られた旅行や帰省、地域の行事への参加など、貴重な経験を嬉しそうに話してくれる子どもがたくさんいました。夏休み中に得られた学びや経験を力に変えながら、実り多い二学期となるよう教育活動を進めていきます。

保田臨海学校

さて、7月25・26日に4年生は保田臨海学校を実施しました。宿泊学習には、自分のことは自分で行う「自立」を育てる働きがあります。同時に、集団生活を通して「協力する力」を身に付ける大切な機会でもあります。日常生活から離れた環境の中で友達と寝食を共にする経験は、教室では得られない多くの学びを子どもたちにもたらししました。

本当の協力とは？

子どもたちに「協力とは何か」と尋ねると、「力を合わせること」「仲良くすること」と答えが返ってきます。確かにどちらも協力に欠かせない要素です。しかし、協力の本質はもっと深いところにあります。

集団生活の中では、様々な考え方をもった人に出会います。例えば、活動の進め方や役割分担について話し合う場面では、一人一人の意見が異なることが当たり前です。初めから全員が同じ考えになることはほとんどありません。そこで、自分の考えを伝え、相手の意見に耳を傾け違いを理解しながら歩み寄る過程が必要になってきます。

話し合いで深まる学び

話し合いの中では、自分の希望を譲る場面や、やりたいことを我慢する場面が見られます。一方で、自分のために友達が譲ってくれたことや我慢してくれたことに気付く場面も必要です。協力とは、自分の意見を通すことでも、消してしまうことでもありません。互いの思いや願いを尊重しながら、みんなが納得できる着地点を探していく営みです。

大人は長年の経験から、相手の表情や言葉の調子、その場の状況を踏まえて判断し、できるだけ円滑に物事を進めようとします。しかし、成長の途中にある子どもたちにとって、互いの考えを調整しながら一つの結論を導き出すことは簡単ではありません。自分の意見を強く主張することもあれば、自分の考えをうまく言葉にできず黙ってしまうこともあります。

より良い関係を築く学びの場

また、子ども同士の話し合いでは、意見の違いから言い合いになることがあります。しかし、子どもたちの素晴らしい姿は、言い合いでは終わらないことです。活動が始まれば再び力を合わせ休み時間には一緒に遊ぶ姿も珍しくありません。感情を引きずることなく相手と向き合い修正する柔軟さは、大人以上に子どもたちがもっている素敵な力です。

保田臨海学校でも、子どもたちは様々な場面で協力することの難しさと大切さを学びました。友達と意見を交わし、ときには考えの違いに戸惑いながらも、一つの活動を成功させるために力を合わせる姿が数多く見られました。活動を終えた子どもたちの表情からは、楽しかったという満足感だけではなく、仲間と共に課題を乗り越えた達成感もうかがえました。こうした経験の積み重ねが、子どもたちを大きく成長させていきます。

より良く生きる資質

これからの社会では、多様な考えをもつ人々と力を合わせながら課題を解決する力が求められます。相手を尊重しながら自分の考えを伝えると共に、互いの違いを認め合いながらよりよい答えを導き出す力は、子どもたちが将来にわたって必要とする資質です。友達との協力を通して子どもたち一人一人がさらに成長できるように、教職員一同力を尽くしていきます。引き続き、本校の教育活動へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。